

# 第16回 縄文楽検定 中級 解答集

令和6年4月作成

テキストから68%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

- テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）  
 テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）  
 『あ、コレ知ってる！』：新潟県立歴史博物館編『あ、これ知ってる！はにわ どぐう かえんどのきの昭和平成』（新潟日報事業社、令和元年8月刊行）。  
 日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』ガイドブック  
 （信濃川火焰街道連携協議会、令和3年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）  
 『信濃川火焰街道連携協議会ガイドブック Vol.6』

No.	解	問題の出典と解説
1		6(件) 日本遺産ガイドブックP25など 縄文土器で指定されているのは新潟県笹山遺跡出土品だけで、他の5件は土偶です(北海道函館市、青森県八戸市、山形県舟形町、長野県茅野市(2件))。
2	c	テキストⅠ p8、テキストⅡ p20 a昭和11年は馬高遺跡で「火焰土器」が発見された年、b平成4年は「笹山遺跡出土品」が国重要文化財に指定された年です。d平成16年は中越地震が発生した年です。
3	b	テキストⅠ p5、テキストⅡ p25など aは津南町堂平遺跡出土の火焰型土器、cは長岡市馬高遺跡出土の「火焰土器」、dは津南町諏訪前遺跡出土の火焰型土器です。
4	c	テキスト外 aとbは長岡市岩野原遺跡出土、ウは長岡市山下遺跡出土の火焰型土器です。火焰型土器は、時代が新しくなるにつれて器形が縦長で、頸部のくびれが大きくなるとともに、鶏冠状突起が上に向かって高く伸びていきます。ウは鶏冠状突起が完成しておらず、4つの突起の大きさも不統一です。研究者によっては、これを火焰型土器に含めない人もいます。イとアは火焰型土器としての要素がきちんと揃っています。ウとは異なり、4つの鶏冠状突起が同じ大きさです。イは鶏冠状突起が低く横長で、器形も寸胴で古い様相を示します。一方、アは鶏冠状突起が縦に伸び、頸部がくびれた器形となっていて、より新しい段階に分類されます。
5	c	日本遺産ガイドブックp2
6	d	『あ、コレ知ってる！』p32、など
7	c	テキストⅠ p13～14など 大木式土器は東北南部を中心に広く分布しています。
8	c	テキストⅡ p8、日本遺産ガイドブックp10など
9	c	テキストⅠ p1
10	c	テキストⅠ p3
11		竪穴住居 テキスト外
12	b	テキストⅠ p1
13	c	テキスト外
14	c	『あ、コレ知ってる！』p104～105など
15		なじよもん テキストⅡ p26
16	a	テキストⅠ p11 王冠型土器の短冊形突起には、左側に抉り(えぐり)が入るという共通した特徴があります。まれに左右両側に抉りが入るものもありますが、右側にだけ抉りが入るものは、野中遺跡(阿賀野市)に1例あるのみです。このことから、aを見ると写真の左右が反転していることがわかります。
17	a	テキストⅠ p16
18	b	テキストⅠ p14 土器型式についての総合問題です。上山田式土器が北陸系であることが分かれば、正解に近づくとおもいます。

19	b	テキスト外 十日町市久保寺南遺跡からは、縄文時代草創期の隆起線文土器のほか、石槍をはじめとする多彩な石器群が出土しており、当時の生活の様子を知るうえで重要な遺跡です。土器に付着した炭化物の分析から約15,000年前という年代が得られています。
20	a	テキスト外 土偶と人面装飾付き土器を写真で区別するのは、なかなか難しいので、じっくり観察してみましよう。aに孔があること、bが香炉形土器であること、dには土器の文様があることも見分けるポイントになります。
21	c	日本遺産ガイドブックp19～20、テキストⅡ p7など
22	c	日本遺産ガイドブックp12
23	b	テキスト外
24	馬高(遺跡) テキストⅡ p13	
25	c	日本遺産ガイドブックp15,巻末「構成文化財一覧」、テキストⅡ p23など 沖ノ原遺跡(津南町)、藤橋遺跡(長岡市)は新潟県を代表する縄文時代の国史跡です。本ノ木・田沢遺跡群は、令和元年に国史跡に指定されています。笹山遺跡(十日町市)は国史跡ではありません。消去法で考えてみましょう。
26	粘土	日本遺産ガイドブックp18 縄文土器には器として必要のない突起がつけられます。これは他の周辺地域、大陸には全く見られないものです。アピール宣言を暗記していなくても、文章の流れから類推できた人も多いのではないのでしょうか。
27	c	テキスト外
28	c	テキストⅠ p21 c魚沼市正安寺遺跡出土の石棒は、中ごろに黒い帯あり、その上(先端方向)は赤く変色しています。これは被熱を受けた痕跡です。黒色帯の下は変色等がなく、その差が明瞭なため、ここが土に埋められていた部分だと考えられています。a十日町市芋川原遺跡出土の石棒は、渦巻き模様が陽刻されるもので、数ある石棒の中でも優品の一つです。b長岡市馬高遺跡出土の石棒は、側面が砥石のようにくぼんでいます。a～cのように、破損していない石棒は実は少数で、多くはd長岡市中道遺跡出土の石棒のように、折れた状態で出土します。
29	b	日本遺産ガイドブックp35 昭和62年(1987)、JR長岡駅の新幹線コンコースに設置されました。新幹線を利用する際にぜひご覧ください。
30	a	テキストⅠ p4、テキストⅡ p25など 火焰型土器が作られた時代の堅穴住居は、平面形が(楕)円形あるいは卵形のもの、そして長方形のものがあります。正方形やそれに近い形をしたものは、縄文時代前期に見られます(十日町市干溝遺跡など)。一方、三角形や星形の堅穴住居は見つかっていません。
31	c	テキスト外 c長岡市岩野原遺跡から出土したもの。小形の石皿にクッキー状炭化物がのっています。d津南町沖ノ原遺跡でもクッキー状炭化物が出土していますが、沖ノ原遺跡のものは、丸い玉のような形状をしています。
32	三十稲場(式土器) テキスト外	
33	d	テキストⅠ p22～24 石製垂飾(すいしょく)、三角とう形土製品、滑車形耳飾(みみかざり)はアクセサリですが、板状石器はアクセサリとは考えられません。消去法で考えてみましょう。
34	a	テキストⅠ p24
35	小林達雄 信濃川火焰街道ガイドブックp3	
36	b	テキスト外
37	c	テキスト外
38	d	日本遺産ガイドブックp6 d新潟市大沢谷内遺跡は縄文時代晩期の集落跡です。設問の土器の他にもアスファルト塊が出土しており、アスファルト加工を盛んに行っていたと考えられています。大沢谷内遺跡の近くの新津丘陵では原油やアスファルトが自然に湧出しており、縄文時代の人々も利用していたと思われます。

39	a	日本遺産ガイドブックp7
40	c	テキスト外
41	d	テキスト外 トチなど堅果類のアク抜き、樹皮や木材を貯蔵・加工するための施設と考えられるものを「水場遺構（みずばいこう）」と呼んでいます。新潟県内では、村上市元屋敷遺跡が有名で、湧水内に敷き詰められたイネ科植物の上に外皮を除去した完形のトチノミがまとまって出土しています。アク抜きのために水漬けしていたものが、何らかの理由で残置された可能性も指摘されています。
42	a	『あ、コレ知ってる！』p100
43	c	テキスト外 難問であったと思いますが、令和5年3月末現在、13,499遺跡です。
44	b	テキスト外
45	b	テキスト外
46	b	テキストⅡ p5
47		まいぶん(ポート) 日本遺産ガイドブックp7
48	c	日本遺産ガイドブックp35～p36
49		突起 日本遺産ガイドブックp2,17～20
50	d	日本遺産ガイドブックp4